



製薬

ぜん やく ぜん やく かぶ しき がい しゃ
全薬グループ/全薬ホールディングス株式会社



もっと、くわしく
見てみよう!

所在地/文京区大塚5-6-15


TEL.03-3946-1120 https://www.zenyaku.co.jp

創業/1950(昭和25)年7月 従業員数/613名(連結)(2023年4月1日現在)

どのような薬で私たちの健康をサポートしてくれるの?

ドラッグストアや薬局などで販売している薬や化粧品を製造しています

私たちは、かぜをひいたときに飲む薬や、健康を維持するための薬、肌のうるおいを保つ化粧品など、安全で安心して使える製品をつくっています。1950年の創業時から積み重ねてきた技術を活かし、みなさんに健康と美を提案し、笑顔になっていただくことを目指しています。



本社

「製薬」とはなんですか? 「製薬」とは病気を治したり、体の不調を整えたりする「薬をつくること」です!

薬をつくるとともに安全に使ってもらうための情報提供もしています

薬をつくるには体のしくみを研究し、病気の原因を探し、効きそうな成分(物質)を見つけます。そして症状にあわせて錠剤・粉・液体などの形にします。薬は私たちの生活に欠かせませんが、間違った使い方をすると体に悪い影響が出て危険です。そのため安全で正しい薬の使い方や健康情報なども一緒に提供しています。



私たちは「OTC医薬品」をつくっています

OTCとは、英語の「Over The Counter(オーバー・ザ・カウンター)」を略した言葉。「カウンター越しにお薬を販売する」という意味で、ドラッグストアや薬局などで買える薬を指します。私たちは、かぜ薬や痛み止めなどの薬や、ビタミン剤やカルシウム剤などの健康を維持するOTC医薬品をつくっています。



発売開始から65年「ジキニン」シリーズ

私たちの会社は1958年から「ジキニン」シリーズという、かぜ薬をつくり続けています。かぜをひいたときに出る熱やのどの痛みなど、さまざまな症状に効く薬です。ドラッグストアや薬局などで買うことができます。



▲ジキニンイメージキャラクター:ジキ忍

OTC医薬品はどのようにつくられるの? 安全で効きめのある薬をお届けするため、全社員で協力してつくっています!

- ①調査・研究**
最新情報を集め、どんな薬をつくるか決める。製品を形にするための研究をする。
- ②開発・製品化**
大量生産をする際も効果に差が生まれないう、何度も試して薬を完成させる。
- ③製造・販売許可を取得**
薬を製造し販売するため、効果や安全を保証する情報を収集。国や都道府県に許可を取る。
- ④工場で生産**
お客さまに安心して使ってもらえるよう、安全と品質を一番に考えて工場で作る。
- ⑤発売**
販売スタッフに正しい使い方を学んでもらう勉強会を開く。製品特長をCMなどで伝える。
- ⑥販売後の情報収集**
お客さまや販売スタッフからの情報を集め、製品に問題が起きていないか調べる。

SDGsなど、どんな取り組みをしているの? 環境に配慮しつつ、誰もが使いやすい製品をつくっています!

- 美しい川を守っています**
製品をつくる工場の近くにはきれいな川があります。工場ですった水はしっかり検査をして川の環境を守り、豊かな自然を残せるよう努めています。
- 持ちやすいボトルを採用**
容器は誰もが使いやすいよう、持ちやすさにこだわってつくっています。例えば、ボトルの中間にくびれをつくることで、手の小さな方でも持ちやすくなっています。
- 読みやすい印字を使用**
パッケージに書かれている「使用期限」などの文字や数字は、読みやすいレーザー印字を使用して少しでも読み間違いを減らせるようにしています。

働く人の声を聞いてみよう! Q&A

Q.仕事で大切にしていることは?
医薬品は、効きめはもちろん安全性も重要です。また、のみやすさや使いやすさも大切です。安全で効きめが高く、使いやすい薬を多くのお客さまに届けられるよう、日々考えながら薬の開発をしています。

Q.どんなときにやりがいを感じますか?
ときには思うようにいかないこともありますが、自分の開発した薬が病気で悩む人の役に立ち、「よく効いたよ」「のみやすかったよ」と言ってもらえたときは苦労が報われ、とても嬉しいです。

OTC 医薬品 開発担当

Q.仕事で大切にしていることは?
薬を使う方の気持ちや、困りごとはないかなど常に「考えること」を大切にしています。正しい情報を伝え、お客さまにとって頼りになる会社であるよう、日々情報収集と発信に努めています。

Q.どんなときにやりがいを感じますか?
私たちの会社の薬を「好きになった」と言ってもらえると嬉しく感じます。人前で説明や資料作成など大変なこともありますが、自分が好きなものを相手も好きになってもらえることが一番の喜びです。

学術担当